

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	福島区
学校名	福島小学校
学校長名	土井 一弘

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・福島小学校では、第6学年 44名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数とともに、全国及び大阪市の平均正答率・無回答率を上回る結果となつた。

児童質問の調査結果からは、肯定的な回答をする児童の割合が全国平均を大きく上回る結果が多数見られた。自尊感情が高い児童が多く、社会に貢献したいという気持ちが育まれ、充実した生活を送っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕どの領域も全国及び大阪市の平均正答率が10ポイント前後上回る結果になっている。その中で自分で考え述べる問題では短答式では高い正答率だが、記述式になると全国平均と同程度の結果となっている。自分の考えを自分の言葉で表現する学習活動の必要性を改めて感じている。

〔算数〕どの領域も全国及び大阪市の平均正答率が10ポイント前後上回る結果になっている。一方で問題別に見るとグラフ・数直線の読み取りについては全国平均を下回る結果となつておらず、普段の授業からグラフや数直線を提示し身近なものとして活用していく必要がある。

〔理科〕どの領域も全国及び大阪市の平均正答率が10ポイント前後上回る結果になっている。元々ある問題に対しての予想・解決方法・考察については回答できる。しかし、その中から新たな問い合わせを見出すなどさらなる探究を進めることにおいては、難しさを感じる児童が少なくない。

質問調査より

自尊感情が高い児童が多く、社会に貢献したいという気持ちが育まれ、充実した生活を送っている。また、心情面については他者を思いやり、互いの気持ちを大切にすることの必要性は理解しており、その中で話し合いを行い互いの良さを認め合う解決方法を見出すことができている。一方で、実際の学校生活においては行動にうつすことが難しく、その場の雰囲気に流れ、ルールを守る・互いの思いを尊重し合うといった態度はまだ十分とはいえない。

今後の取組(アクションプラン)

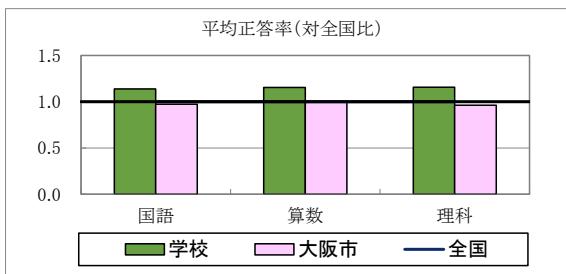
教科・領域全般において「伝え合う」活動を重視した授業を展開する。自分の思いや考えを相手に伝えるだけでなく、相手の思いや考えを言葉を通して感じ取ることで、他者理解を深める態度の育成につなげる。

また、引き続き学級活動の時間を中心に、「自分の考えをもつ」「他者の意見を尊重する」「話し合いの中で折り合いをつける」を指導の根幹とし、子どもたちが主体的に話し合いに参加し、伝え合い、認め合い、高め合う集団を育成できるように教育活動を進める。

【 全体の概要 】

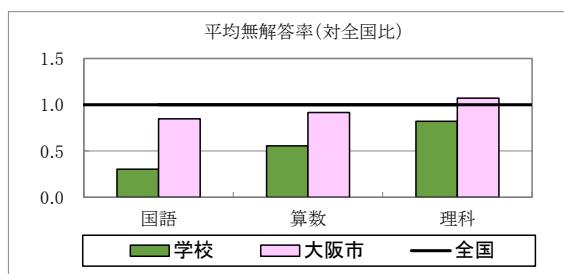
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	76	67	66
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



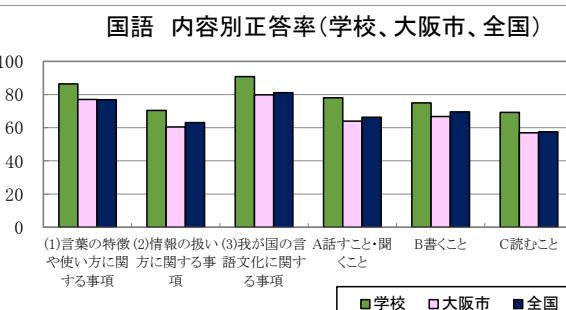
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	1.0	2.0	2.3
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



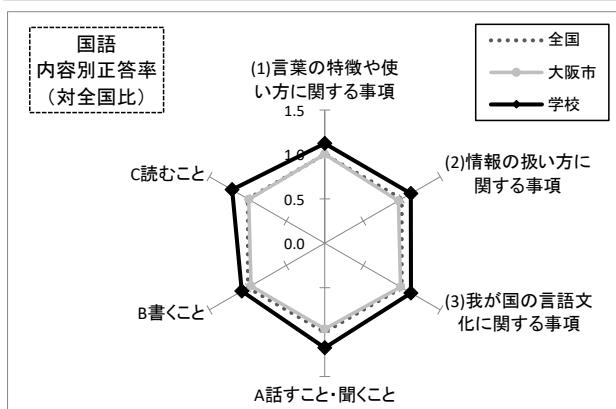
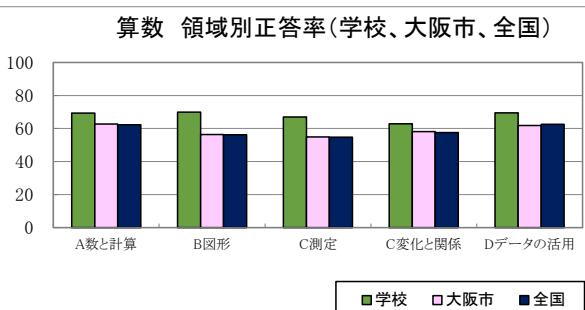
(国語)

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	86.4	77.1	76.9
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	70.5	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	90.9	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	78.0	64.0	66.3
B 書くこと	3	75.0	66.7	69.5
C 読むこと	4	69.3	56.9	57.5



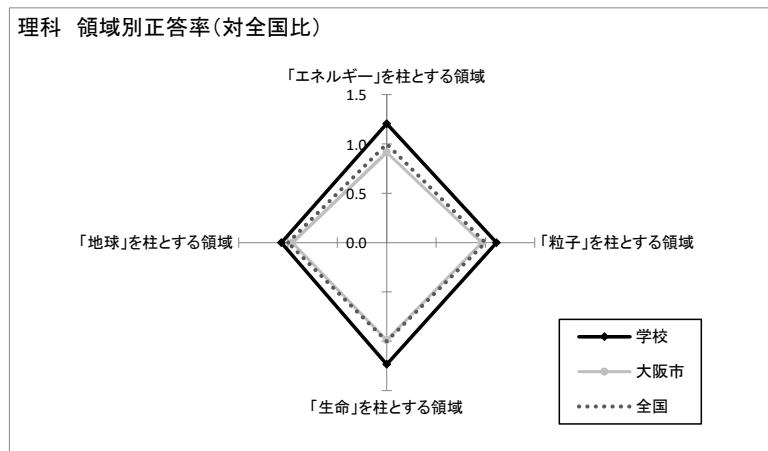
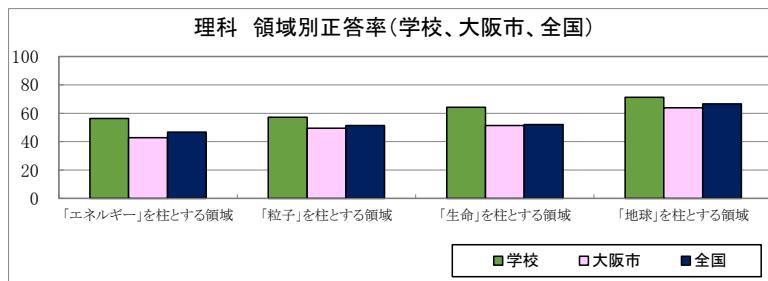
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	69.3	62.7	62.3
B 図形	4	69.9	56.4	56.2
C 測定	2	67.0	54.9	54.8
C 変化と関係	3	62.9	58.2	57.5
D データの活用	5	69.5	61.9	62.6



【 理科 】

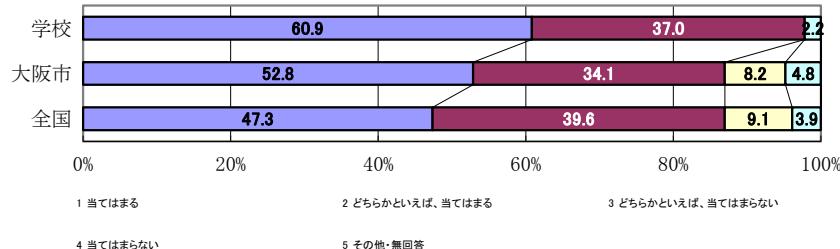
学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	56.3	42.7	46.7
	6	57.2	49.5	51.4
B 区分 「粒子」を 柱とする領域	4	64.2	51.4	52.0
	6	71.2	63.8	66.7



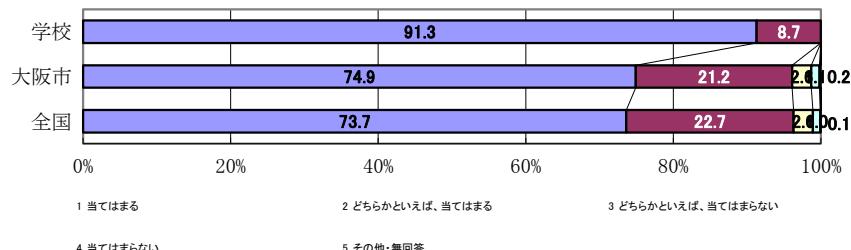
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

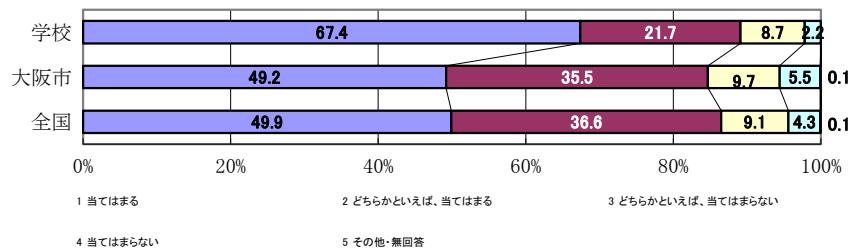
質問番号
質問事項
5
自分には、よいところがあると思いますか



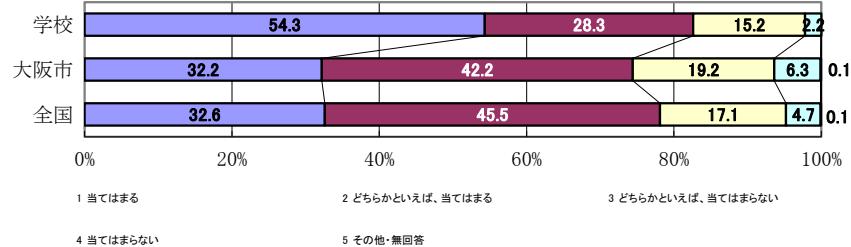
11
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



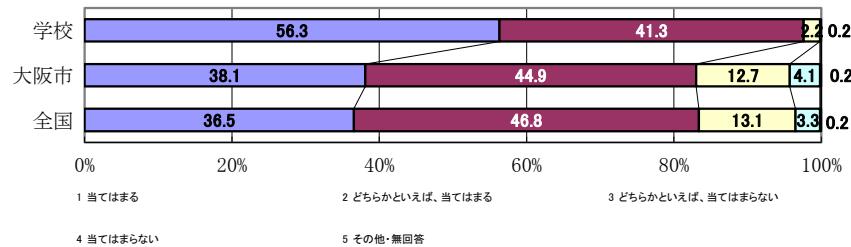
12
学校に行くのは楽しいと思いますか



13
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



41
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



学校質問より

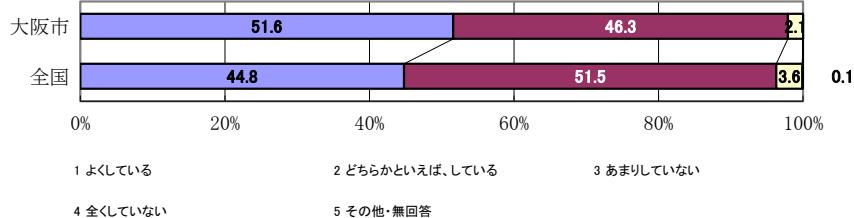
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか、

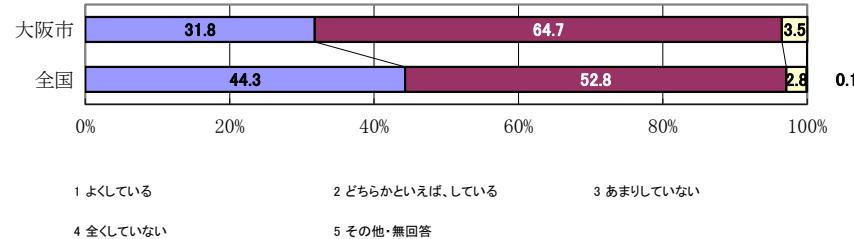
学校 「よくしている」を選択



15

児童の姿や地域の現状等に
関する調査や各種データなど
に基づき、教育課程を編成し、
実施し、評価して改善を図る一
連のPDCAサイクルを確立して
いますか、

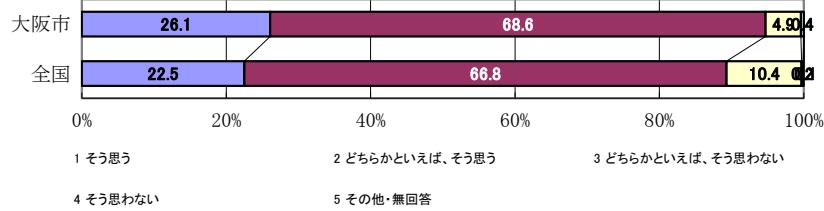
学校 「よくしている」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業
では、課題の解決に向けて、
自分で考え、自分から取り組
むことができていると思います
か、

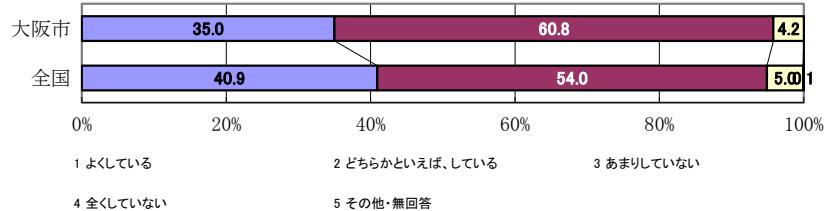
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるよう
な指導を行っていますか、

学校 「どちらかといえば、している」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか、

学校 「どちらかといえば、行った」を選択

